

ME SHへりにて救われた命

沖縄タイムス 2016/01/19

わたしの主張 あなたの意見

命のバトンで
父は今も健在

比嘉 涼子 59歳

「父が倒れ、救急へりで運ばれた」と山原の弟からの電話で不安な気持ちのまま北部の病院へ駆け付けた。昨年1月19日、朝の事でした。

その日父は、いつものように、愛犬サブの散歩、ごみ出し、仏壇の母へお茶を供え、自分もいつもの席でお茶を飲んで一息ついた直後のようだった。

たまたま仕事へ出勤する前に弟が忘れ物をして駐車場から自宅へ戻った時に、父の異変に気付き「119」へダイヤル、すぐに救急車が着き、応急処置をしながらME SHサポートのへりで北部医師会病院に迅速に搬送し、1度は心肺停止状態から、何度か峠を越え、奇跡的に回復し

たのである。

あれから、1年、もしあの時弟が忘れ物をして、戻らなければ…。何よりも、あの時すぐ救急車が着いてまたME SHへりが飛んで来てくれたこと…。救急医療に関わる方々が冷静に的確な判断で処置をしながら、患者や、家族へ向き合ってくれたことで命をつないだと、心から感謝の気持ちでいっぱいです。

今、父は中部の病院へ移って入院している。認知症はあるが、いつも穏やかな表情で過ごしていることが何よりです。命のバトンにありがとうございます。

（比嘉 涼子）